

バイオマス問題 委員会で継続審議

木質バイオマス施設建設事業については、3月議会で6億6,400万円の工事請負費を賛成多数で議決している。その後6月定例会で、用地取得費172万円を増額し、同額の工事請負費を減額する予算の組み換えが、賛成多数で可決されている。

7月13日に議会全員協議会、16日の臨時議会で、それぞれ「バイオマス工事請負契約」の説明及び質疑が交わされた。工事

「絆をさらに深める」

姉妹都市30周年

7月10日、角館交流センターで、長崎県大村市と仙北市の姉妹都市30周年記念式典が、両市の関係者が多数出席して、盛大に開催された。

旧角館町と大村市が姉妹都市提携をしたこの30年間、行政や議会はもちろんだが、民間レベルや子供達の交流も頻繁に行なわれてきた。大村市長と大村市議会議長、石黒仙北市長と佐藤市議会議長4氏は壇上でしっかりと手を



結び、先人のご労苦をたたえとともに、今後もしっかりと両市の絆を深めることを誓い合った。

編集後記

拙家の北方五百メートル程の所に「オダギア」と言われている場所がある。この場所は4〜5メートルの小高い砂利山が続いていて、小学校低学年の頃は良くスキーに通った場所だ。このオダギアの由来を水利関係者から聞いたことがある。砂利山は水路を掘削した時の砂利捨て場で、呼び名は「お互い」が訛ったものだという。

四ヶ村堰という一本の堰が、桜田堰と二ヶ村堰の2本の堰に流れる水量を分け

る構造物は一切なく、少し大きめの石が数個置いてあるのみの分水所だった。春耕期の水の大切さは特別なものがあるし、時には水争いという事にもなり兼ねない。しかしその場所を「お互い」と呼んで、一本の堰の水を双方の状況や必要度に応じて、お互いに融通し合いながら利用したもののようだ。

オダギアの小さなスキー場は農地整備や道路改良によって無くなったが「お互い」という考え方は地域でも地方自治体でも大切にしたいものだと思う。

「新過疎法制定実現」を求め、県大会に出席

7月21日に、秋田県市町村会館で開催された「新過疎法制定実現秋田県大会」に、仙北市議会から佐藤議長をはじめ14人が出席した。

主催者である佐竹知事や総務省の過疎対策室長などのあいさつに続いて、過疎市町村の現状報告として、鹿角市長と民

間代表八峰町「おらほの館」館長から取り組みや要望が発表された。

現行の「過疎地域自立促進特別措置法」は、来年3月末をもって終わる。

しかし過疎地域の現状や果たしている役割を考えると引き続き法律により、総合的な対策が必要である。仙北市の場合、



西木町が過疎地域となっていて、新過疎法においては医療や生活交通の確保、少子高齢化対策、生活環境の維持などを考えると、仙北市全域を対象とする取組みが必要と思う。

